



定価 一紙五銭  
 一ヶ月半紙 五十二銭  
 三ヶ月半紙 一圓二角  
 半年半紙 二圓二角  
 一年半紙 四圓二角  
 印刷費 五銭  
 送料 一銭  
 日刊 五銭  
 日曜 五銭  
 休刊 日曜 大祭 祭日 臨時 休刊  
 發行所 常磐毎日新聞社  
 電話 六三〇番

刊夕日一十二月五

**常磐毎日新聞**  
 初夏の旅から (五)  
 警城高女三學年旅行團  
 (第三信) 十三日午前七時三十分  
 十分に思ひ出深き江の島にさらばを告げ陸に來て寫眞をみんなとる、それから片瀬の停車場より電車、二車に分乗する、右は一面海で一泊した江の島はもう遠くなつて濱の磯づたひを電車はひた走りに走る、七里が濱は何處までも長くつゞいて居る、これからがあの名高い稲村が崎、劔投せし古戰場跡である、嬉しさに心は跳る、暫くして長谷に着き、こゝから海光山長谷寺に

向ふ、眞向の彼方に見ゆる濱は阿田比が濱である次に參詣した所は美男に在り露坐の大佛殿掃き清めされたその庭のすがたも面白く暹羅國皇太子御手植の松を左に見てやがて大佛の前に頭をたれたこれから行く所は鶴が岡八幡宮である、朱の御神橋を渡り莊嚴の威に打たれる若宮堂にぬかづき階を上ると左手の銀杏はそゞろに昔を語り顔に銚ねてゐるのが目に着く、大正十二年の震災により大破し今は礎のみ残つた舞殿を見てしばし歩るき鎌倉宮に參拜する十二時二十分宮の前なる茶屋にて晝食をとるその後こ

けむした頼朝の墓を拜した星霜は久しくこゝにたち英雄の墓は古へ昔を思わせるみなくの眉の間にも昔を偲ぶ影がかすかにたゞよつて居る、鎌倉停車場に向ふその途美しき赤白其の他の色とりと交つたつちが咲き亂れて居る、三時八分横須賀に向ふべく汽車に乗る汽車はたゆまず見知らぬ土地を走る途中無事四時五分定めぬ宿に着き疲れた足をながく伸ばした (つゞく)



**酒鶴仙**  
 松吉屋本店  
 電話二四一〇番

**吉田眼科醫院**  
 集募徒生 目科授教  
 實用的和服洋服教授  
 婦人子供の洋服  
 一般和服  
 フランス刺繡  
 スピン編み  
 叶多裁縫女塾  
 平町字南町(青木寫眞館前)  
 叶多チエ子

**根球植春**  
 カンナと グラヂオラス  
 一球六錢より二十錢まで  
 十數種入荷  
 目丁四町平 ヤトモツマ 部子種藝園

**強壯營養素「マルケイ・ウイタミン」**  
 効果の兩立 病弱の回復と健康の増進  
 是非一度は御試験あれ  
 定價 三圓—五圓—拾圓  
 代理店 平町五丁目 山野邊藥局

**店頭の改善 電話開通披露**  
 電話 六六八番  
 小倉最中  
 折詰、引物、生菓子  
 其の他西洋菓子各種  
 御利用下さい  
 商品の優良と配達の一  
 迅速とは弊店の生命  
**泉屋菓子店**  
 平町五丁目(大王町角)  
 毎月の三日は定期休業致します  
 一ヶ月一日の休業は仕事の完全な遂行のためには決して十分ではありませんが休養の後の新たな元氣を以て一ヶ月を愉快に働く事が出来るならば幾分でも御客様の御用命を正確に近く取扱ふ事が出来ようかといふ私共の念願でございます  
 どうぞ御客様の御ゆるしを御願致します

**夏帽子入荷**  
 流行の新型  
 麦一文字 パナマ帽 小供帽子  
 本年は帽子が安い  
 よい型は早く賣り切れます  
 流行型  
 昨年よりツバに新趣味が増して  
 リボンの巾が廣いのが本年流行の型です  
 価格 昨年より約二割方安くなり  
 日丁二町平 店子帽藤遠

教育玩具  
 毛糸 諸糸  
 書籍 文具  
 花カルタ  
 トランプ  
 ハーモニカ  
 學校用品  
 食料玩具  
 (良品を廉賣致します)  
 商まめ屋  
 卸問屋 森下商店  
 目丁一町平

**美術表具**  
 開店御披露  
 玉成堂  
 平町田町  
 元平陽女學校跡

**山崎合名社**  
 油醬印古山  
 美味 經濟  
 元造 鹽屋山崎合名社  
 電話 一〇一〇番  
 電話 七二〇番

**注意!!! 夏服!!!**  
 今年の夏服を種々取揃へました。夏服は斯界に定評ある正札堂の既製品を召し下さい。  
 アルバカト衣  
 白セルズボン  
 黒セルズボン  
 ハンビロス上下  
 ヘイヤクロス上下  
 縮降學生服  
 其他外皮類  
 平町四丁目停車場通  
**正札堂洋服店**  
 須藤房教  
 電話 呼出 三三四番

### 植田町の材木商が 鐵橋から墜落惨死

#### 商用の爲め上京の歸途

#### デツキから振落さる

石城郡植田町字仁井田材木商木内卯之松(前)は十九日午前五時三十七分植田發の列車で商用の爲め上京午後三時十五分上野發の下り列車に乗り歸郷の途車内で強か酒を飲み列車が八時五十分頃勿來植田間を進行中降車の準備をしてデツキに出たあたりで

### 景色を 眺めてゐる

内蔵川橋梁に差蒐つた際川中に墜落惨死した列車はそれとは知らず進行を續け植田驛に停車するや同乗客の男女四五名が驛員に當時の状況を物語つたので大騒となり搜索の結果今朝四時半に到つて屍体の浮上つのを発見した。たので直に植田署から係員出張検死を遂げた卯之松は常日頃大酒飲みで名を通り最近幾分健康も害してゐたもので昨日商用の爲め上京した序に寸暇があつたら醫師の診察を受けるを稱して東京へ行つたもので酒を飲んで急に身體に變調を來したもので

### ウスモノ着用 罷り成らぬ

### 海水浴着取締

石城の各濱は海水浴期の切迫と共に今年の不景氣を取去る十五、六、七の降霜に於いては直に石城郡農會並に養蠶同業組合では堀内成田技手を北部川前、小川、赤井村方面に急行せしめ詳細なる調査中であつたが同地方は未だ桑の芽が生へず桑園には大した被害なく一般農作物も大した影響はなく殊

### 石城霜害僅少

#### 桑園も苗代も 共に無事……

去る十五、六、七の降霜に於いては直に石城郡農會並に養蠶同業組合では堀内成田技手を北部川前、小川、赤井村方面に急行せしめ詳細なる調査中であつたが同地方は未だ桑の芽が生へず桑園には大した被害なく一般農作物も大した影響はなく殊

### 簡易宿泊所が 是非欲しい

#### ない爲めに 署では迷惑

平警察署内の人事相談所もその存在を意義がようやく一般に普及されて來るに及んで、これを利用する人が段々増加し中には悪用する者すら

### 出て來る 様になつ

た、同所に來る者は種々あるが依然として多いのは懐中無一文となつて「就職口を興へてくれ」とか「歸國旅費を貸してくれ」といふ連中。詮方なく職をさがし當るまで署で

に苗代の如きは何れも水を充滿して置いたから少しも被害はなく唯目下最盛期に入んとしてゐる歳せんまいの類が枯死した位で被害は極めて少かつた

### 郡廢後の廳舎に 平町の食指動

平町最近数年の膨脹は實に著しきものにして市制實施も近き將來にあるが現在の役場廳舎は狹隘腐朽甚だじきものである。郡廢を機として郡廳舎の拂下をなし移轉したならば市役所に昇格しても當分事を缺くやうなことはない。目下猛烈なる運動中であるが縣としては郡農會始め各種産業團體に無償拂下をなし同時に殺物検査所土木監督所等を併置する計劃あるやにて決定迄には相當曲折を見るであらう

### 警 女庭球試合

#### 相馬高女と

平町警城高等女學校庭球部では三十日同校コートで相馬高等女學校庭球部と試合ひをなした

### 豫審判事出張

#### 宇留野豫審判事は石城郡夏井村大字山崎馬車軌加藤春吉(六)が同部豊間村大字豊間字原町荷馬車軌鈴木末吉(五)に出入庖丁を以つて重

### 四倉騒動

#### 求刑は各徴役

四倉町の騒擾事件は本日午前九時から福島地方裁判所



家庭欄

### 活花を保存する法

活花はいつとは限つてありませんが今が最も花の種類が多く諸々の草木の葉色の若々しさが美しい時です。従つて木でも草花でも手折

青年處女聯合 石城郡川前村極賣青年團は十九日午前十時より同村小學校にて處女會と合同し聯合總會を催した

### 河中に飛込み 幼女を救ふ

石城郡川前村大字川前字柳立門馬壽は去る十三日午後二時頃同村倉持ツタの三女タケ(五)が自宅前の夏井川畔に遊び居り誤つて河中に落ち溺死せんとせると發見着衣の儘河中に飛び込み救助した

### 石城海兵入團

本年 度石城郡下海軍志願兵合格者五十四名中舞鶴練習部に入團者は廿二日午後六時迄に郡衙に集合三十日午前七時二十六分平發上り列車にて出發はは備須賀海兵團に入團すべき者は三十一日出發する等である

### 平町人事

出生 △細屋町四馬目昌司氏三女重子 △月見町三三根本ヒサ(二つ) △田町五 中村喜代松(七八)

死亡 △

### 平町の種痘

#### 二十四日から

平町にては左記日割に依り種痘を行ふ由であるが夫々一週間に検査すると

### 磐城高女の 關西旅行團から

(廿四日矢吹醫院にて)新町、長橋町、研町、古鍛冶町、紺屋町、久保町、八幡小路、揚土、大館、道匠小路、七軒町、(同日酒井醫院にて)一丁目、二丁目、材木町、南町、鍛冶町、田中、堂の前(廿五日磐城病院にて)田町、搔槌小路、北目、胡摩澤、杉平、舊城跡、三の丸、六間門、櫻町

### 磐城高女の 關西旅行團から

(第七信)十六日午前七時四分に大津の宿を出て沼津へと向ひました。連日の旅疲れの爲に大抵の方は窓に倚れて軟らかな風になぶられながら楽しい睡眠をむさぼつて居ります。曇つて居たものです

### から、富士の雄姿は望め

ませんでした。汽車が田子の浦はより近くを走つて居る時小高い砂岳に立つて夕の海を眺め入つて居る二人の少女を見ました。餘り懐かしうな顔をして居るので思ひ切つて手を振つて了りました。一寸行きずりに見た人でさう懐かしいのです。瞬間に會つただけで今は別れ様として居ります。旅であるから又異郷の人であるから當然分れるのであるけれども所詮このうつ世に於て私達人間同志はおたがいに旅人なのですから午後六時三十分沼津につきました。宿に宿りこゝで樂しみにして居る茶話會を致しました (十六日の通信)